

## 高大連携事業：松沢哲郎教授講演会 & 高校生との談話会

日時：平成27年7月30日(木) 15:00～17:00

場所：中部学院大学・関キャンパス 参加：希望者(15名)

連携・協力： 関高校・中部学院大・京都大・日本モンキーセンター

### 中部学院大シティカレッジの公開講座、松沢先生との談話会に参加しました！

- 中部学院大・関キャンパスで行われた**松沢哲郎先生(京大霊長研教授、日本モンキーセンター(JMC)所長、中部学院大客員教授)**の公開講座に参加しました。
- 松沢先生は、「アイ・プロジェクト」と呼ばれるチンパンジーの知性に関する研究で著名です。アイとアユムほか三組のチンパンジー母子を対象に、チンパンジーにおける知識や技術の世代間の文化伝達について研究を重ね、比較認知科学という新たな研究領域を開拓されました。



チンパンジーのアイと松沢先生  
(中部学院大HPより)

- 松沢先生は、京大霊長研教授、JMC所長、京大リーディング大学院(霊長類学・ライフサイエンス)プログラムコーディネーターとしてご活躍中です。「**学問と実践をつなぐグローバルリーダー**」「**国際性を身につけた実践者**」の育成をめざす京大リーディング大学院の目標は、われわれSGH関高のめざす理想とも一致します。
- 参加は希望者15名。事前に先生の著作『想像するちから』(岩波書店)を読み、講演と談話会に参加しました。
- 当初予定されていた「様々なサル類から考察する」という演題から、「虐殺の成り立ち」というショッキングな話題に一転。虐殺、戦争、いじめといった暴力行為の起源を、霊長類学者の立場から解説されました。海外視察や霊長類のフィールドワーク、さまざまなサル類からみたヒトの社会の特徴、暴力の起源問題など、興味の尽きない話題が続きました。



公開講座の様子

関高生は最前列中央で聞いています。



関高生との談話会の様子

## ＜講演会、先生との談話会に参加した生徒の感想＞

- ジェノサイドという人間の暗くて複雑な問題を、霊長類という広い視野で見るとは、全く新しい見方に思えて大変興味深かったです。しかし、**ジェノサイドが「人間の本性」「人類の進化の産物」と言い切れてしまうことにはショックを受けました。**今まで私はアウシュビッツなどの大量虐殺、殺人、暴力などは人間的に不自然で特殊な事だと思っていましたが、今日の講演の見方で考えると、それらは人間的に自然であることになります。衝撃的でした。**それを阻止するために先生は共感性を育むことが大事だと仰いましたが、やはり人間の想像する力というのはジェノサイドとは対極的な素晴らしい人類の進化の産物だと感じました。**

今後私たちは様々な価値観を持った人と出会うこととなりますが、やはり**相手のことを理解しようとすることや相手のことを自分のことのように考えることは、多文化共生を実現する上で最も重要だと改めて思いました。**また私はSGH課題研究のテーマとしている「宗教」を知ることも共感性を育むひとつの方法だと考えます。今日の公演は私がSGHの研究をする上ですごく勉強になりました。ありがとうございました。

- 最初、「さまざまなサル類の暮らしから人間を考える」と題名にあったので、「虐殺の成り立ち」が目に入った時は驚きました。でも、今日の講義は私の大きな経験になりました。私の中では、チンパンジーも他のサルも同じ、人間は違うという考えがありました。しかし、チンパンジーとボノボのように似た種類どうしでも生活が違う。視点によっては人間に近い面もある。虐殺、殺し合い、暴力はボノボにはない。チンパンジーや人間にはある。でも、共通祖先を持つ近い存在。人間のボノボ的部分を出していけたらと思いました。あと、**私の心に残ったのは、「今、ここ」「過去、未来、現在」「希望と絶望」「人間とサルの大きな違い」。**よく悩みます。けど、人間らしい部分だと理解しました。今回の講義はSGH課題研究に生かしていきたいです。

- 自分は、これまでの人間の歴史にあった虐殺などがどうして起こったのか、そして、これからどの様にしていけば良いのかということ、チンパンジーやボノボの研究から学びました。人間とチンパンジーの違い、そして、ボノボの争わない心が、人間にも少なからずあるということも分かりました。しかし、虐殺までは行かずとも、少なからずある学校内の暴力なども同質の問題だと思えます。そうした問題をなくしていくためにも、**物事を「三人称」としてではなく、「一人称」として考え、人間らしく相手の考えを想像して生活したいと思えます。**



生徒の質問に答える松沢先生

- 今日、松沢先生の話聞いて、**事前に読んでいた『想像するちから』の内容と繋がりとても興味深く、楽しむことができました。**また、その後の懇談では、**生徒一人ひとりの質問に答えていただき、より、理解を深めることができました。**松沢先生はとても親切で、懇談はとても楽しかったです。モンキーセンターに行くことができないのが残念です。よい経験になりました。ありがとうございました。
- 今回の松沢先生の講演は、とてもよい経験になったと思えました。**講演のあとの座談会では、私では思いつかないような質問を周りの人がして、それについての話を聞いたのが楽しかったです。**事前に講演する方について勉強しておく大切さもわかりました。チンパンジーやボノボと人

間は近い存在であるのに、人間には虐殺がある、それには何の違いがあるのかということが、漠然としてではなくはっきりと示されて、興味深かったです。

■ 「教唆する人」(戦争・暴力をそそのかす人)の存在が示されて、さらにそれは人間にしかない存在だと言われたことは驚いたけれど、なるほどと思いました。あとチンパンジーなどとは違い、人間は想像する力を過去、未来と一緒に生きているから持っているということを聞いたとき、なぜかそれが講演の中で一番、素敵なことだと思いました。また、機会があれば松沢先生の講演を聞きたいです。

■ 僕は物理選択なので、今回の講演は、自分個人の進路に直接関わらないと一般的には言われる生物系分野でしたが、とても興味深い話でした。これから参加する霊長類のフィールドワークに向けての意欲が高まったと感じています。これまで、人間とチンパンジーが似ているのは知っていたけれど、研究にまで行かせるとは思っていませんでした。いろんな点から人間について考えることができるのだと思いました。

■ 今回の松沢先生の講義は、「虐殺の成り立ち」という思いもよらないテーマだったため、初めは気が引けたのですが、暴力や虐殺は霊長類の進化の産物としてとらえることで、普段はあまり踏み込むことのないテーマについて深く考えることができました。

ニホンザルは地域によって異なった文化を形成していて、それは周りの環境に影響されているそうです。その一方で、チンパンジーとボノボでは異なる文化を持ちながら、生態環境はほぼ同じだということがとても興味深かったです。

また「人間における虐殺には、他の霊長類にはない教唆する人と傍観する人という立場がある」、「ともに虐殺を我が身のこととしてとらえていないことから、虐殺をなくすためには教唆や傍観を阻止すること、人間の持つ想像するちからをはたらかせて物事を一人称や二人称で考えることが大切である」という先生の結論を聞いて、霊長類を研究することで人間についてこれほど考察できることに純粋に驚くとともに、社会のなかでの人間のもつ性向について理解が深まりました。講義後の談話会では、やや緊張しましたが、やわらいだ雰囲気でお話を伺えてよかったです。



談話会の様子

■ 今回の講演では、「ジェノサイドは本能である」という先生の話が衝撃でした。戦争や虐殺は、本能という言葉で表せないと思っていたので驚きました。殺す者、殺される者だけが存在するチンパンジー社会と違い、そそのかす者、傍観する者がいる人間社会は、やはり進化の産物でもあり人間の恐ろしい部分でもあるなど実感しましたが、「チンパンジーは今を生きているから、絶望も希望もないという」というお話から、想像する力を持つ人間は精密で繊細に作られていて、希望を持てる人間は幸せでもあるのかななど、事実だけ知るのではなく、そこから想像することもできました。答えは出なかったのですが、人間にはなぜ想像する力が必要だったのか、また深く考えられると、より人間について深く知れるのではないかと思いました。私は、チンパンジーの環境だけでは説明できない文化についても深く知りたいです。

■ 今回の講義は、「知の探検：虐殺の成り立ち」というテーマで、チンパンジーや、ボノボの生態から、世界の3つの虐殺について考えるものでした。まず、初めにチンパンジーとボノボについての話を

聞きました。僕は、今回の活動に参加して、初めてボノボという生き物を知りました。写真を見た限りでは、チンパンジーとさほど変わっているところはなかったと思います。しかし、ボノボは極めて温厚であり、チンパンジーはボノボより温厚ではないということがわかりました。更に、チンパンジーは仲間同士で殺し合ったり、人を襲ったりすることもあると聞いて驚きました。

次に、世界の3つの虐殺についてです。今回聞いたものは、クメールルージュ、アウシュビッツ・ビルケナウ、ルワンダ虐殺についてでした。どれも有名なものばかりですが、特に、アウシュビッツについては、以前に読んだ杉原千畝についての本や、中学の社会の授業に何度も出てきたので印象にのこっています。いずれにしても、とても悲惨で、二度と起こってはいけないことだと思います。**このようなジェノサイドは、殺される人・殺す人・殺せという人・傍観する人が揃うことで成り立つことがわかりました。僕は、そのどれにもなりたくないし、誰もそうさせたくありません。もし、ジェノサイドが人間の本性であり進化の産物であるならば、それを阻止できるような理性や感性を育てていきたいです。**

最後の質問の時に、僕がした質問に対する先生の回答が、竹ノ下祐二先生から聞いた回答と同じだったので、個人的に感動しました。



子どもを抱くチンパンジーの母親(JMC)